

九州共立大学

ちよボラサークル一同

『学園&地域交流ネットワークとちよボラの交流』

フレスタ―ニュース⁵⁰号記念おめでとうございます。

私たちは九州共立大学で「ちよボラサークル」という名で、総勢11名でボランティア活動をおこなっております。

活動内容は学内で出た印刷ミスの用紙を集め、それを束ねノートにし、子供に喜んでもらえるよう表紙に絵を描き、大学周辺の保育園へ持って行っていきます。持って行く子供たちの笑顔に触れ「作ってよかった」といつも嬉しい気持ちになります。折尾地区に在住の方との交流も増え依頼により先日はチェンソーを使い庭の枝切りをしました。チェンソーを使ったこ

とはなく「怪我をしたら大変だから使わない方がいいかも」という意見ができました。

しかし、最初から全てを知っている人はいない。最初から全てをこなせる人はいない。これも勉強。だからこそ使うべき。危険かどうかは使って判断すればよい」という意見もできました。

メンバーは十人十色でさまざまな理由でボランティアをしておりますが、人との出会いがあるから「有り難うの言葉が嬉しい」という理由は皆、一致しています。その他、多数の活動をおこなっております。

園児・小学生の子供から学生、大人まで幅広く、社会福祉・社会事業に関するボランティアが増える日本になってほしいものです。

今後学園&地域交流ネットワークの活動に期待しております。

九州共立大学2年

高良 亮介

『ボランティアとの出会い』

私は高校一年の頃にバレー部に所属していて、その年に椎間板ヘルニアを患ってしまいました。その時はただの腰痛だからすぐ治おると思っておりましたが思うように怪我が治らず、いろいろな病院に行ったり、合宿先でのトレーナーにアドバイスをもらいました。その人たちは自分の家族のように一生懸命治療をしてくれたいし大きな励みにもなりました。

ヘルニアになって思うような運動はできなくなっただけで、それ以上にいろいろなることを学びました。

家族や友達の大切さや生きていくことを当たり前に思っただけいけないと気づかされました。

部活を引退して進学先を決めるとき人の役に立てることをしたいと思いボランティアサークルのある九州共立大学に決めました。入学して2ヶ月後にサークルにはいりました。

サークル名は「ちよつとボランティア」の略で「ちよボラ」でした。ちよボラに入りいろいろなボランティアをしてきました。子供たちに手作りのノートを作ったり、小倉南にある企救特別支援学校という障害をもつ子供たちが通う学校に行き夏祭りに参加してたくさん子供たちと遊びました。

それ以外にも則松小学校のイベントの手伝いをしたり、11月には八幡総合体育館で開催された車椅子バスケットの世界大会のサポートなどもしました。

私は個人でもボランティアをしたかったのでゆめ広場のいるだけボランティアをすることにしました。

自分自身人と話すことは得意ではないけど、ゆめ広場に行けば宮原さんをはじめたくさんの人たちが明るく接して下さるのでとてもやりがいがあるし自分が苦手としているコミュニケーションも少しずつ克服できていきます。

去年参加した町歩きや堀川清掃はただ掃除をしたり、町を見学するだけでなく、いろいろな人とコミュニケーションをたのしんだり、一番感じたことは昔から折尾には自然を大切にすることがたくさんいることが分かりました。

だからこそ今ではボランティアが盛んだし、自慢のできる所だと思います。

北九州に引越してきて2年目になるうとしてますが、ここまで数多くのボランティアができるとは思わなかったし、まだまだ自分にはできることがたくさんあると思います。

たくさんの方がボランティアを必要としていると思うので、これで満足せずに残りの大学生活もたくさんの方の役に立ちいろいろな場で活躍していきたいと思えます。

これからもゆめ広場のご支援の程よろしくお願いいたします。

北九州市立大学大学院修士2年

西田信吾

『黒ダイヤの川くだり』

3年前、折尾商連の桑原さんにお誘い頂き折尾まつりの打ち上げに参加させてもらった。

そこでご紹介頂いた蒔田さんとの出会いがきっかけで、学園&地域交流ネットワークと出会った。

「こつちだよ、西田くん。」初めまして、西田と申します。「蒔田と申します。どうぞよろしく。ところで、今こういうことやっているから、今度来てみない。それからこういうこともやっているから。」

自己紹介も早々に切り上げられ、滝のように注いでくる話を私は「はい」もしくは苦笑交じりに「はい？」と要領を得ずに聴いていた。

これがきっかけで、色々なお誘いを頂くようになった。

この会では、夜まで議論したり、福岡から大きな机や棚をゆめ広場に運んだりした。

地球のステージ1&2 in 北九州2007では、日付が替わるまで会議をし、ポスターを貼ってもらったために奔走し、ラジオにも出演した。

時に、私が大学の活動にお誘いしたこともあった。

様々な活動を通して折尾のこ

とを知り、折尾に想いを寄せる方の存在を知った。

この地は、古くから交通の要所知られる。筑豊本線、鹿児島本線が東西南北に手足を伸ばし、折尾駅の立体交差は心臓に位置する。

堀川は、遠賀川から流れ、洞海湾を経て日本海に注ぐ。

昔は、私の故郷、筑豊より採掘された石炭を製鉄所へ運ぶ懸け橋となり、産業の一端を担った。私が生まれる前の話で、活字や祖母から見聞きしたものである。

ふと立ち止まると、今でもその面影に出会うことがある。

人の笑顔に囲まれ、形を変えながらもその風情を受け継いでいる。

いつからか私もこの地に想いを寄せるようになり、第二の故郷と呼ぶようになった。

私は、春から社会人となる。遠賀川から堀川をたどり、開か

れた青春の門をくぐって、社会という大洋へ船出する。

またこの地に戻った時に、皆さんと笑顔でお酒を一緒にさせて頂きたいと思います。

九州共立大学経済学部

森元 史朗

『この街を歩いてみて』

フレスタ―ニュース50号おめでとうございます。50号記念特集への寄稿をさせていただきます光栄です、

また、今後も学園&地域交流ネットワークの活躍に期待しています。

さて、私は街のあちこちを歩いてみるのが好きです。観光名所よりも、ちょっと珍しい建物や、最近流行りのイル

ミネーション、例えば個人の家などで庭の中をミニチュア的な遊園地に行っているところ（そこは小さいながらも普通の遊園地よりもきれいでした）などに感動します。

歩くときは、よく地図も見ないで「迷子かな」と思ってもほとんど進んでいく、そのうち突然に視界が開けたり、あの道はこう繋がるんだ」と気づくのが楽しいです。「迷子が趣味」です。でも、（残念ながら？）最近は土地勘が付き迷子になるにも苦勞します。

JR陣原駅から主に旧西鉄電車通りの道を通って折尾まで歩いたときのことを、ここに書きま

す。
折尾 黒崎間の路面電車の線路跡地のほとんどが細長く続く空き地で、線路は全て撤去されて所々に花壇や畑もあります。「このあたりが電車通りだ」とすぐわかります。それは狭い路

地の中を走っていて、町の中の風景と一体になっているのを思い出します。チンチンチン・・・と鳴らしながらゆっくり走っていたころを思い出すと、なつかしくて、なつかしくて・・・。

回りに昔からある家もほとんどそのまま当時の面影がまだ多く残っています。
陣原と折尾の中間付近には旗頭神社があり、そこは歴史的にも古くからのゆかりのあるところだそうで、境内にある資料館には折尾の歴史を研究した史料があるそうです。

別の日に、折尾から陣原へ旧電車通りの付近を歩いてみるときは、種田山頭火ゆかりと思える石碑があり、そこには、「山ふところの / 水かれて / 白い花 / 山頭火」と彫ってあります。
また、国道199号線を折尾から水巻へ線路沿いに行くと「風のトンネル」と呼ばれるところがあり、そこも山頭火ゆか

りの場所だそうです。

そこを出てすぐ左の、鹿児島本線の線路下をくぐる赤煉瓦のトンネル（入口の表面が煉瓦でギザギザのところ）にも行ってみました。

第一印象は「百年近く前から使っているのに壊れるどころか今も十分使える」ということに驚きました。

当時の技術力の高さを証明するための大切な文化遺産だと思います。

知人に折尾の街の印象を聞く」と「道路ばかりの街」「開発から取り残された」などといった答えが返ってきました。

確かにそういう場所もあるかもしれませんが、私は、さりげないところに多くの文化遺産を残している歴史の重みを感じられ、また、おそらく初めて来る人にとつても、なつかしい街並みの場所だと思えます。